Vol. 116, No. 8 October 2019

題字　一萬田 尚登 第5代日印協会会長

月刊 インド

Monthly Journal of the Japan-India Association

公益財団法人 日 印 協 会（日印間の政治・経済・文化・人的交流に貢献して 116 年）

9 月 28 日、29 日開催
「ナマステ･インディア」

上：舞台でのダンス

右：開会式
左から マニプール州政府のシン文化大臣、ヴァルマ駐日インド大使、平林日印協会理事長、長谷川 NPO 法人日印交流を盛り上げる会代表

目次

1. 第 27 回 ナマステ・インディア 2019……P. 3
2. 福岡インド友好協会……P. 4
3. 石川インド協会「北陸インド交流会議」の開催……P. 6
4. 「マハトマ・ガンディー翁生誕 150 年記念祭」に参加して……P. 8
5. インドニュース（2019 年 9 月）……P. 10
6. イベント紹介……P. 15
7. 新刊書紹介……P. 17
8. 掲示板……P. 18

1. 第 27 回 ナマステ・インディア 2019

Namaste India 2019　於；代々木公園

日本最大級のインド・フェスティバル「ナマステ・インディア」が、9 月 28 日（土）、29 日（日）に東京都代々木公園イベント広場にて今年も盛大に開催されました。

継続は力なりといわれますが、じつに 27 回目を数えます。昨年はあいにく初日から台風による雨で、二日目は強風予報で当局の要請で午後から中止となりました。しかし今年は二日間とも絶好日和に恵まれ、多くの人が集まりました。

開会式では、点火式のあと、サンジェイ・クマール・ヴァルマ駐日インド大使閣下と公益財団法人 日印協会平林 博理事長の来賓挨拶があり、今回、北東インド マニプール州舞踊団を派遣した州政府の L・ジャヤンタクマール・シン文化大臣も登壇し、最後に主催者である NPO 法人日印交流を盛り上げる会 長谷川時夫代表の順で挨拶がありました。続いてマニプール州政府派遣マニプリ舞踊団が伝統ダンスを披露しました。

今年は、「マハートマー・ガーンディー生誕 150 周年記念」（主催者の表記通り）公式催事とのことで、ベジタリアン向け食事の出店が充実していたようでした。

マニプール州政府派遣マニプリ舞踊団

カレーレストランテント前の様子

会場内のセミナーハウスでは、例年どおり日印協会主催の講演会を開催しました。

1 日目は平林博日印協会理事長が、「魅惑のインド世界遺産―その歴史的、宗教的、文化的背景」と題して、世界遺産の資料もお配りして、インドを旅行したことない人にもわかりやすく講演しました。テント内が満員にも拘わらず、途中で足を止める人が多く、テントの外に椅子を 3 列追加する盛況ぶりでした。

平林理事長の講演

山田真美 日印協会理事の講演

2 日目は、大人気、山田真美 日印協会理事（作家/博士 人文科学/インド工科大学 IIT ハイデラバード校 教養学部客員准教授）が登場。テーマは「観光ガイドに載っていないインパールとその周辺の最新情報」。先生が 6 月に巡ってきた、インド北東部のアルチャーナル州、マニープール州、アッサム州のお話をクイズを出題しながら（商品はシールのビンディーでした）、語って頂きました。小さなお子様も一緒にクイズに参加して、楽しい時間をお客様と共有した講演でした。残念なことは、10 分以上時間延長しましたが時間が足りなくなってしまったことです。続きは来年でしょうか。先生がアッサム州で注文してきたお祭りのお面の写真と共に、続きのお話しを来年期待いたします。

2. 福岡インド友好協会

FIFA：Fukuoka India Friendship Association

福岡インド友好協会　会長　クマル・ダルメンドラ

福岡インド友好協会とは

会員が集まって
（前から二列目、左から三人目の白と緑のＴシャツが筆者）

福岡インド友好協会（FIFA：Fukuoka India Friendship Association）は、2015 年に設立した在福岡インド人が構成する非営利団体です。

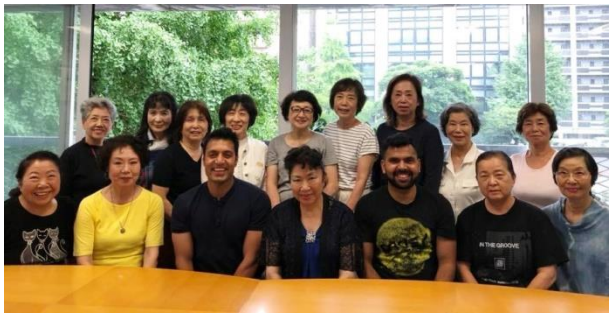
社会人および学生からなる 30 名ほどが中核となり、活動ごとに声をかけあい集まっております。

私が来日した時、福岡にはインド人の組織だったコミュニティがありませんでした。福岡インド友好協会は、インド人がグループとして日本人と交流できる場を作ると同時に、インド人同士が日常においてスムーズにサポートしあえる場ともなっております。

地域住民との交流

団体の活動は日印友好および相互理解を目的とし、その活動は多岐にわたります。インドのイベント「ナマステ福岡」の主催、カレー教室の開催、地域の祭りへの参加、福岡市が開催する外国語教室でのヒンディ語講師、日本人を招待してのディワーリー開催など、多くの活動を通じて地域住民と交流しております。

地域の祭り「山笠」に参加



市内の婦人団体とのカレー教室で

ボランティア活動

残念ながら九州地域でも大きな災害が発生することがあります。私共もボランティア活動として、2016 年熊本地震の際はカレーの炊き出し、2018 年九州北部豪雨の際は瓦礫撤去作業を行いました。微力ではありますが地域に貢献できたことや、日本における災害とその対応を目の当たりにしたことは、大きな経験となっております。

熊本地震でのボランティア活動

インド政府観光局セミナー

九州地域、わけても福岡市は「アジアの玄関口」としてアジア地域との交流が深いエリアです。住民のインドへの関心が高いことも実感していることから、インド政府観光局によるセミナーの開催をいたしました。参加者からはご好評を頂いており、旅先としてのインドを紹介できたことを嬉しく思っております。

Namaste Japan Fest をデリーで開催

福岡県はデリー準州と友好提携を結んでおります。かねてから福岡県のご後援も頂き「ナマステ福岡」というインドのイベントを開催しておりましたが、本年2月デリーにおいても日本を紹介するイベント「Namaste Japan Fest」を開催することができました。

福岡に住み、九州各県に足を運び、この地域の良さを実感しているのですが、インドにおける知名度は高いとは言い難く、ぜひとも紹介をしたいと考えておりました。今回、多くの方々のご協力のおかげで開催ができ、大変嬉しく思っております。今後への課題も多く得ましたので、ひとつひとつ取り組みながらインドで日本を紹介する活動も充実させていければと思っております。

デリーで開催されたナマステジャパンフェスで、
習字と折り紙をインド人の皆さんに体験してもらっている様子

これからの福岡インド友好協会

福岡インド友好協会はまだ若い団体です。しかし振り返ってみると、多くの在日インド人、そして協力をしてくれる日本人の皆さんのおかげで、様々な活動ができました。これからも在日インド人の相互サポートを支えながら、多くの日本人と交流をし、双方の国をつなげる活動を活発化させていきたいと考えております。

2020 年 4 月には「ナマステ福岡 2020」を開催することが決定しております。会員の皆様方も福岡にお越しの際はぜひ足を運んでいただければと思います。今後とも福岡インド友好協会をどうぞよろしくお願いいたします。

「ナマステ福岡 2020」（HP : http://namastefukuoka.jp/ja/)

3. 石川インド協会「北陸インド交流会議」の開催

Indian day in KANAZAWA

石川インド協会　田口光輔　個人会員

1. 石川インド協会の設立

1990 年、石川インド協会は設立されました。当時の在日インド大使である H.E.Mr.Arjun Asrani 大使を招いて発足式を行い、初代会長には元石川県議会議員の岡部雅夫氏、現在はカシミール州出身で石川県にインド料理レストラン「ルビーナ」を営む塩谷マクスーダ氏が会長を務めています。ルビーナには石川県出身の森喜朗日印協会会長も何度も足を運んで下さり、石川インド協会の活動の応援をして下さいました。

石川日印協会発足式・祝賀パーティー、アスラニ前駐日インド大使夫妻を囲んで（1990 年 6 月）

本協会は文化、経済、教育など様々な分野においてインドと日本の関係促進のために発足され、両国のビジネスの橋渡しの役割も担っています。これまでに交換留学のアレンジや奨学金制度の設立、学術や文化において著名なインド人を招いての講演会、サリーパーティーといった、産学官民を巻き込んだ活動を行ってきました。

一時は富山県や福井県も含む北陸ジャパンインドクラブという大きな組織となりましたが、現在では各県でそれぞれインド協会を運営され、2012 年に現在の石川インド協会となりました。

右から、森日印協会会長、塩谷マクスーダ石川インド協会会長。（2008 年 4 月）

2. 「北陸インド交流会議・Indian day in KANAZAWA」の開催

毎年様々な国と経済交流会議をされている北陸経済連合会の会員アンケートで今年はインドが、将来有望な国として注目度の高い国として選ばれました。また、今年よりヴァルマ駐日インド大使が新たに就任されたことと、石川インド協会が設立 30 周年を迎えたことから、2019 年 7 月 19 日に三者主催による「北陸インド交流会議・Indian day in KANAZAWA」が開催されました。

その日の活動をご紹介したいと思います。

早朝、小松空港に到着された大使ご一行はメインの会議に先立ち石川県の 3 つの箇所に訪問されました。到着後まず初めに向われたのは能美市にある JAIST（北陸先端科学技術大学院大学）でした。JAIST は日本で 2 番目にインド人留学生が多いほどインドとの交流に積極的な大学です。

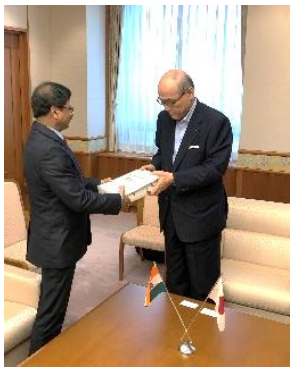
次に訪れたのは北陸を代表する金沢大学です。この大学ではアーユルヴェーダに精通する分子生薬学研究室があります。それぞれの大学で学長を初めインドと関わりのある方々と懇談をされました。

「北陸インド交流会議」の打ち合わせのため、ヴァルマ駐日インド大使をご訪問、インド大使館にて。

北陸先端科学技術大学院大学を大使が訪問。浅野学長、川西副学長やインド留学生と共に

大使が訪問した金沢大学にて。山崎学長、仏教やアーユルヴェーダに精通する分子生薬学研究室の先生方やインド留学生と共に

最後は石川県庁にて大使が知事と懇談をし、企業の連携や映画のロケ地として石川県との一層の交流促進を期待しました。



石川県庁にて
ヴァルマ大使と
谷本正憲石川県知事

「北陸インド交流会議」は2部構成となっており、金沢商工会議所にて開催されました。インド側からはヴァルマ大使をはじめ書記官の方々、及びインディアツーリズムの総局次長、北陸在住のインド人留学生が参加され、日本側からはインドに詳しい北陸の企業や団体が中心に参加されました。会議後の懇談会まで含めると、参加者は計200名にも上りました。

会議の第1部は「日本・北陸とインドの関係」がテーマでした。初めに北陸経済連合会の久和会長が挨拶をされ、その後のヴァルマ大使の挨拶では「北陸の資本や先端技術とインドの人材などを組み合わせる効果は大きい」と投資を呼び掛けました。

金沢商工会議所にて
「北陸インド交流会議」を開催

インド大使館のサティア・パル・クマール一等書記官は「最新インド経済・投資環境情報」を発表。JETROの西澤知史氏は「インドの投資環境変化と日系企業進出の動向」を発表され、共にインドの現状と投資先としての魅力を説明されました。

JAISTの浅野哲夫学長は「インドの大学との交流を通じて感じること」をテーマに、インドの学生と日本や中国の学生との違いについて、石川インド協会の塩谷マクスーダ会長は「2020年：30周年に向けて」といった内容で、それぞれ教育と文化といった観点からインドと日本について語られました。

第2部は「ビジネスを通じてのインドとの交流について」をテーマとし、より実際のビジネスシーンに沿った内容でした。

初めに三井物産戦略研究所の新谷大輔室長より、中東・アフリカ進出を視野に入れたインドビジネスの将来性を詳しく説明して頂き、次にイセ食品の伊勢彦信会長から実際にインドに展開するまでの経緯などを話して頂きました。

そして最後にはALES Globalの石崎弘典CEOから「インドStart Up企業と北陸企業の連携の可能性」をテーマに、自身の携わってきたスタートアップ企業とインドにおけるスタートアップ市場の特質について分かり易く説明して頂き、経済交流会議を締めくくりました。

3. 懇談会

懇談会は金沢ニューグランドホテルにて催され、衆議院議員の佐々木紀先生や石川県議員の中村勲先生の挨拶に始まり、石川県在住のインド人留学生によるボリウッドダンスやインド古典舞踊のOdissiダンス、富山DARCの和太鼓などが披露されました。特に富山の和太鼓は大変迫力があり、後日に大使館からインドでの出演依頼を頂くほど気に入って頂けたようです。

金沢ニューグランドホテルでの懇談会

「北陸インド交流会議」は新聞、テレビ放送などのメディアにも取り上げられました。

今後も北陸の皆様がインドに関心を持って頂き、日印の架け橋になれるよう尽力をしていくつもりです。

4.　「マハトマ・ガンディー翁生誕 150 年記念祭」に参加して

150th Birth Anniversary of Mahatma Gandhi

日印協会 常務理事 笹田勝義

マハトマ・ガンディーは、インド建国の父と云われ、インド人の心に深く根付くインド思想を生み出した、インドの誇る最大の偉人である。

そのマハトマ・ガンディー翁の功績をたたえる生誕 150 年記念祭が、2019 年 10 月 2 日（水）14：00～17：30 に主催者である駐日本インド大使館にて開催され、多くのガンディーイズムを信奉、賛同するインド人と日本人が参集した。このお祭には、インド大使館の主催の下、弊協会、ディスカバーインディアクラブ及び日印文化交流ネットワークの各団体との共催（日印女子フォーラムの協力）で、ヴィヴェーカナンダ文化センター講堂に溢れんばかりの人々が集まり、盛り沢山の行事に感動し、楽しむことができた。

駐日インド大使館のサンジェイ・クマール・ヴァルマ大使のご挨拶に始まり、日印協会　平林理事長始め、招待されている貴賓客から多くのお祝いの言葉が続いた。

ヴァルマ大使のご挨拶

日印協会　平林理事長

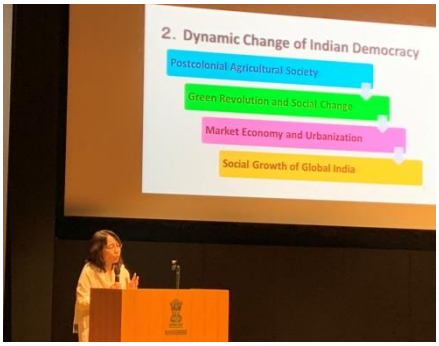
ガンディー生誕 150 周年を
記念して発行されたマンガ版
ガンディー伝記の紹介

また、ガンディー翁を祝す種々の催し物が披露され、映画、マンガ、ガンディーエッセーコンテスト表彰、カタックのインド伝統舞踏、バジャン（讃美歌）の参加者全員による合唱など、インドの文化を楽しみ、ガンディーの広い心を実感として触れることができた。

栗原香織先生と竹中千春立教大教授（日印協会理事）が登壇され、ガンディー翁に纏わったお話をインド専門家として披露された。両先生とも深くガンディーイズムを研究され、それぞれの切り口で、ガンディーの逸話などをお話され、改めてガンディーの偉大さに気付かされた。大変に参考となったが、感動したポイントとして、次の事をご披露したい。

一般的に我々が知るガンディーとは、非暴力、不服従、真理の実践、カーディーによるインド伝統の布を紡ぐ、インド最大の政治家ではあったが政治の要職には就かなかった等、表面的にしか知識を持たないが、その哲学の深さと広さに改めて感じ入った。その功績の披露には枚挙に暇がないが、ガンディーが提唱した、『自分ができる

ガンディーの創設した大学で博士号を
取得した栗原香織先生



竹中千春立教大教授（日印協会理事）

ことから始め、仲間を作って、諦めずに進めていく』思想の実践、これがインド人の心に行き渡った非暴力や不服従の原点であった。本だけでは理解できず、インド人民から真実を学べ、その為の草の根運動のトレーニングと実施が何よりも重要なことと説く。実践の表れとして、有名な『塩の行進』に表現されよう。思想の理解を十分にするのは、子供の教育を何よりも優先しなければならない。世界で起こった戦争とインド独立戦争から学んだ思想であると。

ガンディーは神ではない、人間だからこそ、訓練によって真理の追及が成し得る、即ち、アシュラム（修行道場）などにてトレーニングを通して、そして自分の信ずることを実践すれば、人間の心が判る人になり得ると説いた。

講演時の話としては出ていないが、筆者の印象として、日本経済の祖と言われる渋澤栄一（日印協会　３代目会長）が、私利私欲を排して、『教育』こそが日本の将来を担う人材の輩出だと説いたことに相通じる思想だと感動した。

この様に、ガンディーの思想と実践は、インド人の熱く、濃い血となって、全身に沁みわたっている。

これも筆者の個人的考えだが、インド人は、口角泡を飛ばして、喧嘩をしても決して暴力を振るわない、即ち、多くのインド人の信奉する宗教では暴力を振るってはいけないと説くし、また、自分が信ずることは何処までも主張する姿勢は、日常的に垣間見られるし、典型的なインド人の特性と理解できる。これがガンディー思想の神髄なのであろう。

日印協会主催
「インド・ビジネス法務に関するシンポジューム」
ご参加受付中

日系企業がインドにおいてビジネス展開をするに当たり、インド企業との合弁交渉、その運営、更には撤退する場合の合弁解消、ビジネス遂行に当たり避けられない労務対応、税務紛争等々、未だに種々の場面においてインド独特の難しさがあります。

今般、日印協会は、インドにおけるビジネスを円滑に展開するための、日本人弁護士から見た問題点の分析やビジネス遂行に当たってのアドバイス等実務に焦点を当てたシンポジュームを以下の要領にて開催することと致しました。日印協会の法人会員でありインドに関するビジネスで幅広く活動されている四つの日本の法律事務所のご後援とインド・ビジネスの第一線に立っておられる敏腕弁護士のご参加を得て開催される前例のないユニークなインド・ビジネスに関する総合的なシンポジュームです。

開催日：2019 年 11 月 15 日（金）　13：30～16：30
開催場所：国際文化会館 樺山・松本ルーム
主催：公益財団法人 日印協会
後援：松田綜合法律事務所、 小島国際法律事務所、
TMI 総合法律事務所、西村あさひ法律事務所（弁護士の登壇順）、
及び 公益財団法人 国際文化会館
参加費用：お 1 人様 5,000 円

プログラム詳細は封入チラシをご覧ください。
申込方法：お電話（03-5640-7604）又はメール（partner@japan-india.com）にてご照会ください。

5. インドニュース(2019 年 9 月)
News from India

1　内政

【連邦政府/連邦議会】

9 月 8−9 日：シャー内務大臣は，グワハティにおける北東部委員会（ＮＥＣ）及び北東部民主連合（ＮＥＤＡ）の会合で，各州首相等から市民権法改正法案に対する懸念が示される中，同法案は北東部の特別地位を保証する憲法第 371 条を犯すものではなく，北東部の人々が恐れる必要はないと述べた。

9 月 14 日：シタラマン財務大臣は，輸出業者への 5000 億ルピーのインセンティブ，1000 億ルピーの住宅ローンを含む経済活性化政策を発表した。
シャー内務大臣は，デリーにおけるイベントにおいて，政府機関でのヒンディー語の使用を促進すべきであると述べた。また，「インドには様々な言語があり各言語は重要であるが，世界的にインドのアイデンティティーとなりえる国全体用の言語を持つことが大変重要である」,「今日，一つの言語が国を統一することができるとすれば，それは最も多く話されているヒンディー語である」とツイートした。これを受け，他言語を使用する地域の政党やコングレス等が批判や遺憾の意を示した。

9 月 20 日：シタラマン財務大臣は，法人税の大幅減税を発表した。課徴金適用後の実質法人税は，現行の 35.94%から 25.17%に引き下げられる。

9 月 23 日：シャー内務大臣は，デリーにおけるイベントにおいて，2021 年の国勢調査は紙媒体による記入式ではなく電子化して実施すると発表した。

【コングレス党】

9 月 12 日：ソニア暫定総裁は，デリーにおける党幹部会合において，「2019 年のマンデート（国民の負託)を最も危険なやり方で悪用している」としてモディ政権を批判した。また，10 月 15 日から 25 日の間，経済鈍化に対する全国規模の抗議運動を実施することを発表した。

9 月 13 日：ソニア暫定総裁は，コングレスが政権を握る各州の州首相を招集し，コングレスによる公約が実現されているか，各州政府のパフォーマンスをレビューした。

2　経済

【インド経済（2019 年度第 4 回金融政策委員会（利下げ))】

9 月 4 日：インド準備銀行（ＲＢＩ）は金融政策委員会（ＭＰＣ）会合を開催し，その結果を公表したところ，概要以下のとおり。今回，成長率見通しを引き下げるとともに，今年に入って 5 回連続となる利下げを決定した。

メモ：ＭＰＣステートメントのポイント

(1) 政策金利（レポ・レート）を 5.40%から 5.15%へ引下げ。

(2) 金融政策に対するスタンスを「緩和的（accommodative)」で維持。

(3) インフレ見通しは，2019 年度第 2 四半期は 3.4%，2019 年度下半期は 3.5〜3.7%，2020 年度第一四半期は 3.6%。

(4) 2019 年度の実質ＧＤＰ成長率は 6.9%から 6.1%へ引下げ。

3　外交

【印モルディブ関係】

9 月 3 日－4 日：ジャイシャンカル外相はインド洋会議出席のためモルディブを訪問した。訪問中，ジャイシャンカル外相はソーリフ大統領，ナシード国会議長，シャーヒド外相等との会談も行った。

【印露関係】
9 月 4 日－5 日：モディ首相はウラジオストクを訪問した。同訪問中，モディ首相はプーチン大統領との印露首脳会談，東方経済フォーラム等に出席した。両首脳は印露共同宣言を発表した。

【印中関係】
9 月 5 日：印メディアは，特別代表メカニズムにおける国境をめぐる対話が延期された旨報じた。中国外務省は声明で，王毅外相は同会議出席等のため訪印予定だったが，インド側の都合で延期となった旨発表した。

9 月 10：日印メディアは，10 月 10 日から 12 日にかけて訪印予定の習近平国家主席がモディ首相との非公式首脳会談において実行管理ライン（Line of Actual Control）について焦点をあて議論する予定である旨報じた。

【印パキスタン関係】
9 月 30 日：印メディアは，クレーシー・パキスタン外相がカルタールプール回廊の開通式にマンモハン・シン前首相を招待する旨述べたと報じた。

【印豪関係】：9 月 16 日
印メディアは，シン国防大臣が 11 月に豪州を訪問予定である旨報じた。訪問中，印豪は相互後方支援協定及び海洋協力にかかる協力に合意する予定。

【ＳＡＡＲＣ】
9 月 27 日：印メディアは，国連総会会期中に開催されたＳＡＡＲＣ外相会合で印パ両国が相互のステートメントをボイコットした旨報じた。ジャイシャンカル外相は発言後退出し，クレーシー・パキスタン外相の発言を聞かなかった。また，クレーシー外相もジャイシャンカル外相の後に入室し，お互いが顔を合わせることはなかったと報じられている。

4　日印関係

9 月 5 日：東方経済フォーラム開催中、ロシアのウラジオストクにおいて，日印首脳会談が開催された。(詳細は以下)

9 月 26 日：国連総会開催のニューヨークにおいて，日印外相会談が開催された。(詳細は以下)

今月の注目点（その 1）：日印首脳会談

9 月 5 日，午前 10 時 35 分から約 45 分間，東方経済フォーラム出席のためロシア・ウラジオストク訪問中の安倍晋三内閣総理大臣は，ナレンドラ・モディ・インド首相と首脳会談を行ったところ，概要は以下のとおりです。

1. 冒頭，安倍総理大臣は，G20 大阪サミット，ビアリッツのG7 サミットに続き，モディ首相と再会したことを歓迎し，モディ首相の誕生日（9 月 17 日）に祝意を表しました。モディ首相からは，先日インド国防大臣が訪日して日印防衛相会談が開催され，防衛や戦略的関係構築につき意見交換できたことをうれしく思う，自分も安倍総理も同じ 9 月生まれであり，共に日印関係を前進させていきたい，日印物品役務相互提供協定（ACSA）の合意に向け前進していると承知しており，安倍総理大臣のインド訪問の前に閣僚級 2＋2 を開催する準備ができている旨述べました。

2. 両首脳は，次回の安倍総理大臣のインド訪問に向けた準備を加速化させていくことで一致しました。安倍総理大臣からは，閣僚級「2+2」の早期実現，各軍種間協力を含む防衛協力，サイバー分野，ＩＴ分野，食品加工分野，健康医療分野，高速鉄道事業，人的交流などでの具体的な進展を得て，日印関係の幅を広げたいとの意向を表明しました。モディ首相から，インド太平洋の共通ビジョンの実現に向けた取組，安全保障分野，デジタル分野，第３国協力といった分野での協力を具体化させていきたい旨述べました。

3. また両首脳は，ＲＣＥＰ，地域情勢，グローバルな課題について意見交換を行いました。カシミール情勢について，モディ首相から説明があり，安倍総理大臣からは，緊張の拡大を避けるために関係国の自制が必要であり，当事者間の対話により平和的に解決されることを期待する旨述べました。

今月の注目点（その 2）：日印外相会談

9 月 26 日，午後 4 時 30 分から約 30 分間，第 74 回国連総会出席のためニューヨークを訪問中の茂木敏充外務大臣は，ジャイシャンカル・インド外務大臣と日印外相会談を行ったところ，概要は以下のとおりです。

1. 冒頭，茂木大臣から，「外相就任後，早いタイミングで重要なパートナーであるインドとの間で外相会談を開催できることをうれしく思う」，「特別かつ重層的な日印関係を更なる高みに引き上げていきたく，今後貴大臣と緊密に連携していきたい」と述べました。

2. これに対し，ジャイシャンカル大臣からは，茂木大臣の外務大臣就任に祝意を表した上で，早期にインドを訪問いただき閣僚級「2+2」を実施したい旨，今後日印関係強化のために茂木大臣と緊密に協力していきたい旨述べました。

3. 両外相は，次回の安倍総理大臣の訪印が特別な訪問となるよう協力していくことで一致しました。また，ＲＣＥＰや地域情勢につき意見交換を行い，緊密な連携を確認しました。

今月の注目点（その 3）：モディ首相による国連総会での一般討論演説

9 月 27 日，印外務省は国連総会において実施されたモディ首相による一般討論演説の英文のトランスクリプトを発出したところ，ポイント以下のとおり。

1. 13 億人のインド人を代表して第 74 回国連総会に出席することは、大変な名誉である。今年は、ガンジー生誕 150 周年であり、世界中がこれをお祝いする非常に特別な機会である。ガンジーの真実と非暴力のメッセージは、今日でも我々とって、世界の平和、発展及び進歩にとって非常に重要である。

2. 今年、世界最大の選挙が行われた。世界最大の民主主義では、かつてないほど多くの有権者が私（モディ首相）と政府の第 2 期政権のために投票した。そして、マンデートのおかげで、再びここに立っている。しかし、マンデートが伝えるメッセージは更に重要であり、より広く、より勇気を与えるものである。

3. （インドのような）発展途上国が世界最大の公衆衛生キャンペーンを成功裏に実施し、国民のためにわずか 5 年間で 1 億 1 千万個以上のトイレを建設できるようになり、その成果と結果は全て、世界全体にインスピレーションを与えるメッセージとなる。発展途上国が世界最大の健康保険制度を成功裏に運営すると、5 億人の人々に対し、無料の治療のため、年間 50 万ルピーの健康保険を提供することになる。このスキームの結果である成果と対応するシステムは、世界に新しい道を示している。

4. 発展途上国が世界最大の金融包括スキームを成功裏に運営すると、わずか 5 年間で 3 億 7 千万以上の銀行口座が貧困層に開かれ、その結果として世界中の貧困層に信頼を築くことになる。

5. 発展途上国が世界最大のデジタル識別プログラムを国民のために立ち上げ、生体認証 ID を付与することにより、彼らが権利を活用できるようにし、そこから生じる現代のシステムである不正をチェックすることで 200 億ドル以上を節約し、世界に新たな希望を与える。

6. 建物の入り口にある「使い捨てプラスチックはもういらない」という標示に気がついた。インドでは使い捨てプラスチックを使用しないようにするため、非常に大規模なキャンペーンが全国で実施されていることを国連総会でお知らせできることを嬉しく思う。

7. 今後 5 年間で、節水を促進するだけでなく、1 億 5 千万世帯への水の供給を確保する。今後 5 年間で、12 万 5 千キロメートル以上の新しい道路を建設する。

8. インドが第 75 回独立記念日を祝う 2022 年までに、貧困層のために 2 千万戸の家を建てることを計画している。

9. 世界は 2030 年までに結核撲滅の目標を設定しているが、インドでは 2025 年までに結核を根絶することに取組んでいる。

10. インドは何千年も前からの素晴らしい文化があり、独自の活気に満ちた伝統を持ち、普遍的な理想を取り込んだ文化である。我々の価値観と文化は、あらゆる存在に神性を見出し、全ての人の包括的福祉に努めている。

11. したがって、我々のアプローチの中心は、国民参加による公共福祉であり、この公共福祉は、インドだけでなく全世界のためのものである。

12. それが我々のモットーからインスピレーションを引き出せる理由である：皆の信頼と共に全ての成長のための総合的取組み（sabka sath、sabka vikas、sabka vishwas）。これもインド国内に限定されていない。

13. 我々の取組みは、哀れみの表明でも見せかけでもなく、義務感や義務だけに触発されている。我々の全ての努力は、13 億人のインド人を中心に集まっている。しかし、これらの努力が成し遂げようとしている理想は、世界全体、全ての国、そして全ての社会が持っているものと同じ理想である。取組みは我々のものだが、その成果は全ての人、全世界のためである。

14. この信念は、インドのように、それぞれ独自の方法で開発に取り組んでいる国のことを考えると、日増しに強くなっている。喜びや悲しみを聞いたとき、夢を知るとき、インドをより速いペースで発展させるという決意は更に強くなり、インドの経験は有益となる。

15. 3000 年前、インドの偉大な詩人、カリヤン・プングン・ドラ・ナールは、世界で最も古代の言語であるタミル語で“ Ya-dum, Oo-ray, Yaav-rum Ke-rir”と記した。これは、我々は全ての場所と全ての人に帰属するという意味である。この国境を越えた帰属意識は、インド特有のものである。

16. 過去 5 年間、インドは何世紀にも渡る国家間の友愛と世界の福祉という偉大な伝統の強化に取り組んできたが、これはまさに国連の主要な目標に沿ったものである。

17. インドが提起している問題、つまりインドが構築するために前進している新しい国際的なプラットフォームは、深刻な世界的な課題と問題に対処するための総合的な取組みを求めている。

18. 歴史的及び一人当たりの排出量の観点から見ると、地球温暖化に対するインドの貢献は非常に低い。しかしながら、インドはこの問題に対処するための措置を講じるという点において、先進国の１つである。

19. 一方、450 ギガワットの再生可能エネルギーの目標の達成に向けて取組んでおり、国際太陽光同盟を創設するためのイニシアチブも取っている。

20. 地球温暖化の影響の１つは、自然災害の数と深刻さの増大であり、同時に新しい地域と形態で現れている。このため、インドは「レジリエントなインフラに関するコアリション」（CDRI）の形成を開始しており、CDRI は自然災害に耐えられるインフラの構築を支援している。

21. 国連平和維持活動のための兵士の最大数の犠牲はインドである。我々は、戦争ではなく、仏陀の平和のメッセージを世界に与えている国である。悪について世界に警告するため、テロに対する我々の声が真剣さと怒りで響き渡る。

22. これは１つの国ではなく、世界全体及び人類にとって最大の課題の１つであると考えている。テロの問題について、我々の間で全会一致の欠如は、国連創設の基礎である原則に害となる。

23. 人類のために、世界がテロに対して団結し、テロに反対することが絶対に不可欠であると強く信じている。

24. 21 世紀の現代の科学技術は、社会生活、私生活、経済、安全、連結性及び国際関係に抜本的な変化をもたらしている。このような状況において、断片化された世界では、誰の利益にもならない。境界内に自分自身を閉じ込める選択肢もない。

25. この新しい時代に、多国間主義と国連に新しい方向性とエネルギーを与えなければならない。

26. 125 年前、スワミ・ヴィヴェカナンダ導師は、シカゴの世界宗教会議で「調和と平和…不和ではない」というメッセージを世界に伝えた。

27. 今日、国際社会に対する世界最大の民主主義からのメッセージは、「調和と平和」であり、同じである。

6. イベント紹介
Japan-India Events

◇　最近のイベント　◇

◆　10 月 7 日　鈴木 哲　新駐インド日本大使が日印協会を訪問されました。

10 月 7 日、第 27 代駐インド日本大使に任命された鈴木 哲氏が、ご赴任前のご挨拶のため日印協会にお越しになりました。

鈴木 哲　新駐インド日本大使と
平林日印協会理事長

平林　博理事長から、駐インド大使から日印協会理事長としてかかわった 15 年有余の体験に基づき、日本国大使として期待する事柄、成功するためのアドバイスなどをお伝えいたしました。

笹田常務理事、西本事務局長など協会の役職員にも親しく接していただきました。

鈴木大使は本年に還暦を迎えられましたが、外務省の国際情報統括官（局長レベル）を経て筆頭局長である総合外交政策局長を務められた俊秀な外交官です。

ますます重要かつ多岐にわたる日印関係を前線で指揮するお役目にふさわしい大使を得て、日印協会も喜んであり、ご活躍を期待するところです。

インドでの在勤を終えて駐スペイン大使に栄転される平松賢司大使が一時帰朝されることになりましたので、下記の通り、新旧駐インド大使の歓送迎会を開催することになっております。

会員の皆様のご参加を期待しております。非会員のご友人たちも、ぜひお誘いください。

日印協会主催

鈴木 哲・平松賢司 新旧駐印日本大使歓送迎レセプションのご案内

今般 駐インド日本大使の交代があり、赴任予定の鈴木 哲 新駐印大使を激励するとともに、3 年 11 カ月間にわたり、日印関係の発展に多大なご貢献をされ帰国される平松賢司 前駐印大使に謝意を表するために、歓送迎レセプションを下記の通り開催することと致しました。なお平松前駐印大使には、駐スペイン大使として赴任をされます。

会員各位におかれましては、万障お繰り合わせの上ご出席下さいますようご案内申し上げます。

日　時：　2019 年 10 月 29 日（火）12 時 00 分～14 時 00 分（受付開始 11 時 30 分）
場　所：　憲政記念館　　衆議院事務局憲政記念館
会　費：　出席者お一人様につき、法人会員 個人会員　6,000 円
　　非会員　　8,000 円
形　式：　立食ビュッフェ形式

参加ご希望の方は、**協会ホームページで受け付けております。**
【問い合わせ】日印協会事務局　電話 03-5640-7604　　メール partner@japan-india.com

◇　今後のイベント　◇

◆　10 月 31 日　「野生司香雪とサールナートの仏伝壁画フォーラム」がインド大使館で開催

今から 80 年以上前、香川県出身の画家、野生司香雪（のーすこうせつ）が 5 年の歳月をかけてインドの仏教寺院に壁画を描きました。なぜ戦前、仏教の衰退した独立前のインドで日本人画家が「釈尊一代記」の壁画を描くことになったのか、そこに至るまでの明治以降の岡倉天心とタゴールから始まる日印文化交流から紐解き、幼少期から才能を認められ人生の節目には必ず支援する人が現れる数奇な運命の野生司香雪の生涯、インドでの壁画作成の苦労、インドにおける仏教、これから始まる壁画保全事業に光を当てるフォーラムを開催いたします。

日時：2019 年 10 月 31 日（木）　開場 12:45　開演 13:15　終演 16:30
場所：インド大使館　ヴィヴェーカナンダ文化センター講堂
　　地下鉄九段下駅　2 番出口から徒歩 7～8 分
入場：無料（要事前申込）
申込み：氏名・国籍・所属・ご連絡先（電話・メール）を記載の上、
　　下記メールアドレスまたは FAX 番号宛にお申し込みください。
　　【DIC メール】event@discoverindiaclub.org【野生司香雪画伯顕彰会 FAX】087-888-0836
詳しい内容は協会ホームページ、または月刊インド 9 月号の封入チラシをご覧ください。

◆　11 月 2 日～4 日　西日本最大のインドの祭典　「インディア・メーラー2019」開催

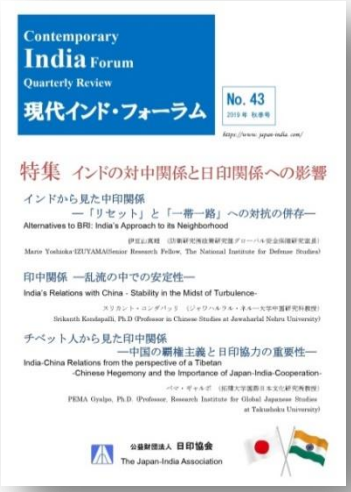
日　程：2019 年 11 月 2 日（土）、3 日（日）、4 日（月祝）
会　場：神戸メリケンパーク　　入場無料
主　催：インディアメーラー2019 実行委員会
共　催：在大阪・神戸インド総領事館、在日本インド商業会議所、一般社団法人インドクラブ、 インディアン・ソーシャル・ソサエティー(ISS)、公益社団法人アジア協会アジア友の会、関西日印文化協会
後　援：兵庫県、神戸市、公益財団法人 日印協会、ラジオ関西、神戸新聞社、サンテレビジョン
詳しくはこちらのサイトをご覧ください。https://indiamela.jp

◆　11 月 23 日ハリウッド大学院大学＆ジヴァ・アーユルヴェーダ第 3 回 国際シンポジウム「未病を改善するアーユルヴェーダの智慧」

こちらのシンポジウムでは、国際未病プロジェクト（国際 MME-BYO）を進めている神奈川県庁から本間健志氏と鎌倉麗子氏、日本のアーユルヴェーダ界を 40 年にわたって牽引し、東洋医学と西洋医学の融合を目指す上馬塲和夫先生、インド・アーユルヴェーダ界において革新的な診断アプローチを進める一方、伝統的な治療方法を堅持して注目を集めるジヴァ・アーユルヴェーダのドクター・パルタップ・チョハン、アーユルヴェーダの知恵を治療に取り入れている歯科医師である舟久保せいこ先生、福島県立医科大学 医学部疫学講座助教であり、アーユルヴェーダによる健康促進と改善を研究テーマの一つとして取り組んでおられる舟久保徳美先生が登壇されます。

日時：2019 年 11 月 23 日　10：30－
場所：ハリウッドホール、ハリウッドプラザ 5F
　　東京都港区六本木 6 丁目 4－1　六本木ヒルズ
ご参加料：5,400 円　（税込み）
お問い合わせ・お申し込み：ジヴァ・ジャパン
　　info@jivajapan.jp　/ TEL　044-430-5072
詳しい内容はこちらをご覧ください http://www.jivajapan.jp/seminar/symposium20191123.html

7. 新刊書紹介
Books Review



§『現代インド・フォーラム』2019 年秋季号　No. 43
特集「インドの対中関係と日印関係への影響」

日印協会会員に 10 月 1 日にメール配信致しました。協会 HP にも 10 月 8 日にアップ済ですので、次の URL でご覧いただけます。

https://www.japan-india.com/forum/f75bec6852c51ea45725f2927185c60b7b6d4bd6

今号では、「インドの対中関係と日印関係への影響」を特集し、下記 3 論文を掲載しております。

1. インドから見た中印関係
   —「リセット」と「一帯一路」への対抗の併存—
   Alternatives to BRI: India's Approach to its Neighborhood
   伊豆山真理　(防衛研究所政策研究部グローバル安全保障研究室長)

2. 印中関係　—乱流の中での安定性—
   India's Relations with China - Stability in the Midst of Turbulence-
   スリカント・コンダパッリ　(ジャワハルラル・ネルー大学中国研究科教授)

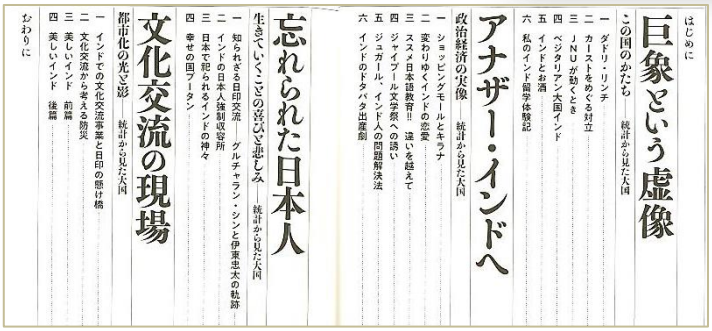
3. チベット人から見た印中関係　—中国の覇権主義と日印協力の重要性—
   India-China Relations from the perspective of a Tibetan
   -Chinese Hegemony and the Importance of Japan-India-Cooperation-
   ペマ・ギャルポ　(拓殖大学国際日本文化研究所教授)

§新インド入門：生活と統計からのアプローチ

著者：田中洋二郎　　**出版社：白水社**
価格：1,900 円＋税　　**ISBN 978-4-560-09707-6**

本のタイトルから真面目でお堅い内容を想像していましたが、著者のインドでの生活体験から感じたことと、それに関する統計との両方が書かれており、本の中に自分の知らないインドを多く発見でき興味深く読めました。

数ある発見の一つは、デリーの観光名所にもなっているムガール帝国第二皇帝フマユーンが都城して使用した古城プラナ・キラが、日本人の強制収容所に使用されていたことです。第二次世界大戦中は東南アジアから三千人近い一般の日本人が連行され収容された、ガイドブックにも書かれていない事実。お薦めなので、目次もご紹介しておきます。


はじめに
巨象という虚像
この国のかたち　—統計から見た大国
一　ダドリ・リンチ
二　カーストをめぐる対立
三　JNUが動くとき
四　ベジタリアン大国インド
五　インドとお酒
六　私のインド留学体験記
アナザー・インドへ
政治経済の実像　—統計から見た大国
一　ショッピングモールとキラナ
二　変わりゆくインドの恋愛
三　ススメ日本語教育!!　違いを越えて
四　ジャイプール文学祭への誘い
五　ジュガール、インド人の問題解決法
六　インドのドタバタ出産劇
忘れられた日本人
生きていくことの喜びと悲しみ　—統計から見た大国
一　知られざる日印交流　—グルチャラン・シンと伊東忠太の軌跡
二　インドの日本人強制収容所
三　日本で祀られるインドの神々
四　幸せの国ブータン
文化交流の現場
都市化の光と影　—統計から見た大国
一　インドでの文化交流事業と日印の懸け橋
二　文化交流から考える防災
三　美しいインド　前編
四　美しいインド　後編
おわりに

8. 掲示板
Notice

〈次回の『月刊インド』の発送日〉　次回 11 月号の発送は、2019 年 11 月 22 日(金)を予定しております。

会員は発刊日にお手伝いをしていただければ、月刊インドにチラシを無料で封入することが出来ます。チラシの封入をお考えの方は、日程をご確認のうえ事務局までご連絡下さい。チラシを封入する際には、当該催事の協会会員に対する割引等特典の配慮をお願いしております。チラシ印刷の前にご一考下さい。

＜編集後記＞

今月号と来月号に、日本各地域に存在するインドとの友好親善を推進しておられる団体のいくつかに執筆願い、それぞれの活動ぶりを紹介していただくことにしました。先ずは福岡インド友好協会と石川インド協会です。来月号にも続編で別の団体にご登場をお願いしております。

さてインドは早くも正月気分真っただ中です。本欄を書いている 10 月中旬にもかかわらず、すでに Happy Diwali ！のメールが飛び交っています。

他方で、今回の台風を心配するメールのほか、電話も何人かのインド人からもらいました。インドでもスーパータイフーンの脅威について上陸前から何度も報道されたようです。残念なことに被害が大きくなってしまい、命を落とされた方々に心からお悔やみ申し上げ、罹災された方々に心からお見舞い申し上げる次第であります。

科学技術の発達に伴い、AI,IoT,ロボットなど ICT 技術で目覚ましい発展をみる昨今ですが、片や何百年も前からの土手で仕切られただけの河川が溢れる様を見て、この隔絶感を思い知らされてしまいます。いまからでも毎日スマホやパソコンに向かうのでなく、地道に土にまみれながら一個ずつ石を積み上げるなど、治水、治山を進めたいと考え始めました。　(編集子)

本誌に掲載致します投稿等は、執筆者のご見解･ご意見であり、
当協会の見解を反映するものではありませんので、念のため申し添えます。

入会随時受付中

日印協会は、1903 年、長岡護美、大隈重信、澁澤榮一の３名が中心となって創設されました。以来、日印の相互理解の促進を目的として、両国の友好親善に関する事業を行ってきました。

現在の協会の活動は、当協会の活動に賛同下さる会員の皆様からの会費によって支えられております。今後もより良い活動を続けるために、当協会の活動にご賛同いただける法人･個人のご入会を歓迎致します。

インドに関心をお持ちのお知り合いの方がいらっしゃいましたら、是非日印協会をアピールして下さい。ご希望により、当協会の活動に関する諸資料をお送りいたします。日印協会の活動に賛同して頂ける多くの法人会員･個人会員のご入会をお待ちしております。

☆年会費:	個人	１口(8,000 円)から	☆入会金	個人 2,000 円
	学生	１口(4,000 円)から		学生 1,000 円
	一般法人会員	１口(100,000 円)から		法人 5,000 円
	特別法人会員	１口(150,000 円)から		(一般法人、特別法人会員共に)

月刊インド Vol.116　No.8 (2019年10月21日発行)　　発行人 平林 博　　編集人 西本達生
発行所　公益財団法人 日印協会
〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町2-1-14 スズコービル2階
Tel: 03-5640-7604　　Fax: 03-5640-1576　　E-mail: partner@japan-india.com
ホームページ: https://www.japan-india.com/